

以下は、平成28年度(2016年4月～2017年3月)に富山県立大学で募集した海外留学・研修制度の実施情報です。平成29年度の実施情報はオリエンテーション・学生掲示板等でお知らせします。

	中国・瀋陽化工大学での語学留学	アメリカ・ポートランド州立大学での語学研修
主催	富山県立大学	オレゴン州ポートランド州立大学
概要	<ul style="list-style-type: none"> 交換留学制度による留学。単位の認定あり。 中国に滞在しながら中国語・文化を学ぶ。 瀋陽化工大学とは平成23年1月に学術交流協定・学生交流に関する協定を締結(平成28年1月に更新)。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本全国の大学生を対象に実施しているプログラムで、本学でも募集を行っている。 日本人の実践的な英語力の向上と、ホームステイや社会見学による文化体験・理解が目的。
派遣先大学概要	1952年に設立された大学で学生数は約14,000名にのぼる。工学を教育の中心とし、情報、経済、外国語等も取り入れる総合大学。本学とは平成23年1月に学生交流に関する協定を締結し、本学生を派遣するとともに、瀋陽化工大学生を1年間受け入れている。瀋陽市が位置する遼寧省は、1984年に富山県と友好提携を締結し、両県省において幅広い分野にわたる活発な交流が行われている。	1946年に設立されたオレゴン州最大の公立大学。226以上の学士号、修士号、博士号の専攻を提供している4年制大学。在学生は約3万人で、うち留学生が2千名ほど在籍している。ポートランド市が位置するオレゴン州は、1991年に富山県と友好提携を締結し、富山県と最も結びつきの強い米国の州となっている。
期間 ※H28情報	2016年8月30日(火)～9月17日(土) 19日間	【夏期】2016年8月18日(木)～9月11日(日) 25日間 【春期】2017年2月16日(木)～3月12日(日) 25日間
費用・助成制度 ※H28情報	<p>費用:合計約13万円(航空運賃、上海視察費、保険料、ビザ代金、寮滞在費、教科書代) その他:食費、お土産、瀋陽視察費等、パスポート取得費用</p> <p>助成制度:後援会等から全員に5万円の助成 日本学生支援機構から6万円の奨学金(家計基準・成績基準あり) ⇒実質自己負担2万円の学生も!!</p>	<p>研修費:夏期1,900ドル 春期1,800ドル 授業料、社会見学等参加費、現地サポート費 等</p> <p>滞在費:夏期995ドル 春期975ドル ホームステイ費、食費(3食)、通学費、学生寮滞在費(夏期のみ)</p> <p>その他:航空券約17～20万円、保険料約1万円、成田空港までの日本国内移動費 等</p> <p>助成制度:後援会、同窓会から全員に5万円の助成の他、語学研修を促進するための寄付金による助成がある場合がある。</p>
滞在環境 ※H28情報	<ul style="list-style-type: none"> 瀋陽化工大学留学生寮に滞在 日本語を話せる中国人学生チューターと教員が生活を支援 食事、生活必需品購入はすべて瀋陽化工大学内食堂・売店で行う 土曜・日曜は休日でチューターと瀋陽市内を見学 上海半日視察を実施(視察地:リニアモーターカー乗車、豫園・豫園商城、田子坊、外灘クルーズ船(ナイトクルーズ)乗船) 	<ul style="list-style-type: none"> 全米でも治安が良い都市とされ、ライトレールやバスが運行する交通の便に優れた中規模都市 現地担当者が緊急連絡先を学生に渡し、24H体制で学生をサポート 学外活動等はPSUに通う現地大学生アシスタントが付き添い、学生をサポート 原則、現地ホストファミリー宅で、他の参加学生1名と共に2人でホームステイをする(夏期は研修期間中3日程度、学生寮に滞在) 放課後・休日は、原則ホストファミリーと共に過ごす
授業科目 研修内容 ※H28情報	<p>瀋陽化工大学の教員による各科目30時間授業を受講</p> <p>初級中国語 会話を中心とする教材により中国語によるコミュニケーション能力を養い、中国の文化や社会事情に触れ、中国に対する関心を高める。</p> <p>中国事情</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義で、中国社会・文化を理解し、自身の考えを中国語で説明する力を養成するとともに、工場や市街地、歴史的建造物を見学する。 瀋陽博物館、遼寧省博物館、九・一八記念館、北方重工集団(掘削機会社)、遠大(ガラス加工会社)等を視察 	<p>英語授業 Speakingなど実用的な英語を学習</p> <p>選択授業 ボランティア・大衆文化・ホスピタリティから選択。 講義と関連施設訪問などの社会見学で構成されている。</p> <p>その他課外活動 ポートランド観光地訪問、NBAまたは野球試合観戦、アウトレットショッピング、シアトル日帰り旅行など</p>
単位認定	<p>学部生は留学で修得した2科目の単位を卒業要件単位に含められる。(大学院生は①②とともに、中国語Ⅱ履修済の者は①の単位認定を受けられない。)</p> <p>①「初級中国語」⇒「中国語Ⅱ」単位認定(1単位) ②「中国事情」⇒総合科目>言語・文化>「海外留学科目」を認定(2単位)</p>	<p>学部生は留学で修得した2科目の単位を卒業要件単位に含められる。(大学院生は①②とともに単位認定を受けられない。)</p> <p>①「英語授業」⇒「海外語学研修科目」単位認定(1単位) ②「選択授業」⇒総合科目>言語・文化>「海外留学科目(米国)」を認定(1単位)</p>
応募資格 ※H28情報	<ul style="list-style-type: none"> 工学部及び大学院に在学する日本人学生 ①②どちらかの語学力要件を満たす者 ①「中国語Ⅰ」を修得済みまたはH28年度前期に修得見込みの者 ②日本中国語検定協会が行う「中国語検定試験」の準4級以上を合格している者、または応募時H28年6月検定試験合格見込みでその後合格した者 	工学部及び大学院に在学する学生(正規生)
参加者数 ※H28情報	9名(募集人数:10人)	【夏期】7名 【春期】7名 ※研修全体としては毎回20～50名程度の日本の大学生が全国の大学から参加する。



瀋陽化工大学留学生留学レポート

チューターとの交流 生物工学科 1年 能登 絵吏子

私は今回、初めての中国・海外留学でとても不安でしたが、チューターが温かく親切だったので、安心して留学生活を送ることができました。朝から夜までチューターと一緒に過ごしたことで、強い信頼関係を築くこともできました。別れるのがつらいと感じるほど楽しく、充実した毎日と一緒に過ごさせてくれた人に出会えたことは私にとって宝物です。

生物工学科 1年 北見 真夏夢

中国では日本語はあまり広まっておらず、基本的にレストランのメニューなどには英語が用いられています。しかし、九・一八歴史博物館では日本人に読んで欲しいと言わんばかりに日本語で説明が書かれていました。一番印象に残っているのは日本人により日本語で「子々孫々までの日中友好を願って・・・」と書かれていたことです。私は隣のチューターさんを見て日中の友好関係は確かに続いていると実感しました。

中国文化

生物工学科 1年 加藤 大喜

中国には料理を残す文化が存在します。「食べきれないくらいたくさんのお食べ物をありがとう」という意味が込められています。日本では食べ物は残さないことが礼儀ですが、「もったいない」という概念は日本特有のもののように感じました。私は初めのうちは食べ物を残すことに抵抗がありましたが、あまりにも量が多いので身をもって中国の文化を体験しました。



チューターと外食

留学を終えて

機械システム工学科 4年 高松 創一郎

この留学で得た最も大切な教訓は、海外の実情は実際に目で見て感じてようやく少しだけ理解できるということです。中国については報道や本などでいろいろ見たり聞いたりしますが、実際に行ってみると今までの中国や中国人に対するイメージがただの固定概念ということに気がきました。その国の様々な人たちと国際交流することによって、その国や地域の実情がわかるのだと実感しました。

今後の目標

機械システム工学科 2年 田中 涼

私は半年後、大学院を卒業し社会人となります。海外で働くことになった場合の語学力などはもちろんのこと、会社の中での人とのコミュニケーションの取り方など、ヒューマンスキルにおいても多くのことを学ぶことができました。殻にこもってばかりではなく、積極的に行動することで初めて見えるものがあるということ、今回の留学で改めて実感しました。これからもその事を忘れずにグローバルに活躍できる技術者になれるよう、積極的に行動し続けたいと思います。



学生交流 (スポーツ活動)



授業風景

学習環境

環境工学科 2年 日比 裕美

初級中国語の授業では、半分以上の時間が声調や発音練習でした。日本人の話す中国語が現地の方々になかなか通じない理由として、必ず声調と発音があげられます。日本語にはそり舌音がないため私たち日本人は、中国語を発音することが難しいのです。どの先生も優しくかつ丁寧に私たちを指導してくれました。



留学生寮



送別会にてチューターと



上海視察 (ナイトクルーズ)

ポートランド州立大学 (PSU) 語学研修レポート

留学の動機

生物工学科2年 板倉 葵

私は英語が苦手なので、この機会に英語を好きになれたらよいと思ったことと、学生の今しか留学経験はできないと考え、参加することを決意しました。

環境工学科2年 加藤 聖也

英語力の向上と、元々興味があったアメリカの文化をさらによく知ることが出来ればと思い、今回のプログラムに参加しました。

環境工学科2年 源本 楓

自ら積極的に会話し、英語力のみならずコミュニケーション力を養うことによって今後の生活にプラスになることを得たいと思って研修に参加しました。その為には事前にある程度英語力をつけていく必要があると考えましたが、日本の英語学習は、主に文法や単語を学ぶことが多く、テストもほとんどが筆記で、話す機会がなかったため、最初はとても不安でした。



ホストファミリーと

授業

生物工学科2年 上田 真子

街に出て買い物や街頭インタビューをして基本的な受け答えを学びました。発音や文法に自信が持てなくても、まずは単語だけでも声に出すことで相手に意図を読みとってもらえることができるということを実感しました。観光したときにも、この授業のおかげで現地の方とスムーズに会話できるようになり、達成感がありました。午後の選択授業（ホスピタリティ選択）では、アメリカのサービス業について学び、チップやホテル等、知らなかった文化を学びました。また、この研修には現地学生アシスタントがいて、生活している中で、自分だけでは解決出来ない問題や些細な疑問について、どんなことでも説明してくれたし、手助けをしてくれました。



マリナーズ VS ヤンキース野球観戦



通学に使用するライトレール

ホームステイ

機械システム工学科2年 黒川 淳太

ホームステイを通して感じたことは、アメリカ人は他文化を多く学びたいと考えているということです。ホストファミリーに、なぜ私を迎え入れてくれたのか質問すると、「日本の文化をたくさん知りたいから」と答えました。さらに、「アメリカには様々な国の人々が住んでいてお互いの文化を理解することが大切なんだよ」とも言いました。日本人ももっと他の文化に興味関心を持つべきだと感じました。

生物工学科2年 河野 友里

ホストマザーとは、その日あったことを話して、ときには褒めてくれて、ときには叱られ、本当の子供のように接してくれました。彼女は料理が趣味で、休日是一緒にお好み焼きなど日本料理を作って過ごしました。留学前は、アメリカ人はみんな毎日ハンバーガーやピザに甘いデザートという食事をしているイメージを持っていましたが、庭で作った野菜を沢山使っていたり、米も食べたりと驚きました。



修了式にて



学生アシスタントと

留学を終えて

生物工学科2年 板倉 葵

英語で話すことの楽しさを学ぶことができました。初めのころは聞くだけでも緊張していましたが、終り頃にはもっと会話したいと思うようになりました。こんなにも英語で会話することが楽しいと思うようになるとは思っていませんでした。

環境工学科2年 松下 達也

お店に入る時やエレベーターを利用する時にドアを開けておくなどのレディーファースト、教会に行くこと、ベジタリアンの人との出会いなど、留学せずに日本にいると経験することがなかったことを通して、世界にはいろいろな国・人種・宗教・文化・考えがあることを再認識することができました。

環境工学科2年 加藤 聖也

留学に行ったことで英語が完璧にできるようになったというわけではありません。しかし、言語に関しては積み重ねしかない、ということを感じることができました。これからもこの留学で得られたものを生かして、日々の英語の勉強に励んでいきたいと思えます。



授業の様子



フィールドワークで先生と

Gap Challenging Program 第4回 中国・大連での企業実務研修

《平成29年度の実施内容は学生掲示板等でお知らせします。》

主催：富山県(大連YKKジッパー社協力)
応募資格：富山県内の高等教育機関(富山県立大学含め6大学および1高専)に在籍する学生(国籍及び中国語のレベルは問わない。)
募集人数：全大学・高専合わせて20名程度(富山県立大学からの参加は2名)
日程：2016年8月20日(土)～9月3日(土)
参加費：約10万円(航空運賃、旅行雑費)自己負担:食事代、パスポート取得代、お土産代等
行程：YKK工場視察、日本人派遣員との交流会、YKK AP・大連ソフトウェアパーク・ソフトバンク・大連外語大学訪問、仕事体験(YKK)等

知能デザイン工学科 3年 鎌田 泰地

研修を通して、日系企業が大連に展開している理由に以下のことが挙げられると思いました。それは、中国人の負けず嫌いで努力を惜しまないという国民性、人件費が安くコストの削減ができること、中国本土の中で日本語を話せる人の比率がトップであること、治安が良く交通の便が良いということです。そして最も大きな理由として、日本経済が成長しきっており、海外に出ないと企業の利益が出ないことが挙げられると思います。



研修発表会

※コメントと写真は平成28年度参加学生のものです。

このことから私は、これから社会人になる自分に必要なことは、国内だけでなく世界に目を向けることと、海外の人々ともコミュニケーションをとれる技術を習得することだと考えました。

平成28年度北陸銀行主催 中国・大連トレーニー研修

《平成29年度の実施内容は学生掲示板等でお知らせします。》

主催：北陸銀行
応募資格：(1) 富山県立大学に在籍する日本国籍の学生
 (2) 日本企業の海外展開等に関心のある者
募集人数：2名(富山大学8名、金沢大学8名と合同)
日程：2017年3月15日(水)～18日(土)
参加費：10,000円(プログラム参加費)自己負担:パスポート取得代、お土産代等
行程：北陸銀行セミナー、ソフトバンク・YKK(株)・東亜エンタープライズ・旅順視察、大連理工大学生との交流 等

機械システム工学科 4年 石山 健

視察で訪れた企業で聞いた話から受ける印象はどれも異なるものでしたが、社員の方の失敗を恐れず新しいことにチャレンジする姿勢は共通していました。他の人にはない力強さとオーラを肌で感じ、海外で活躍している日本人とはこういう人なのか、と感銘を受けました。

私がこの研修に応募した理由は「普段の自分がやらないことをやろう」という気持ちからでした。初めて挑戦することには苦しいこともありますが、そのあとには必ず新しい発見があり、今までとは違う視野を手に入れるこ



大連理工大学での交流会

※コメントと写真は平成27年度参加学生のものです。

とができると思います。誰かに海外研修を勧めることがあれば、内容が濃いという面でも、金銭的な面でもこの研修を一番に勧めます。

2016年度交換留学生 金 美佳さんからのコメント

2015年に瀋陽化工大学で県大生のチューターを務め、2016年4月から富山県立大学に留学している学生です。

私は瀋陽化学大学にて2年生の時から3度、瀋陽に留学に来られた日本人学生をサポートするチューターの役を務めてきました。2回目、3回目のチューター経験を通して日本の学生たちとの交流がますます深くなっていくうちに、自分も日本で勉強したい、生活したいという思いが強くなりました。

日本に来てもうすぐ1年になります。日本に来たばかりの頃、過去に瀋陽へ留学した県大生たちが日本観光に連れて行ってくれたり、研究室の先生と学生が勉強でも生活でもわからない部分を親切に教えてくれたりしました。最初は食べ物など文化や習慣の違いから疲れることもありましたが、皆さんのおかげで今はもう



県大生が歓迎

すっかり慣れました。また、知らないうちに日本語も上達したようです。バイト先で「日本語上手ですね」と、お客様からほめられたこともありますし、外国人である私に「頑張ってください」と、励ましてくれた人もいました。やはり、日本で実際に見たり聞いたり経験したりすることが一番良かったと思っています。それが留学で得られたとても大きな収穫の一つです。



瀋陽化工大学にて



お問合せ：富山県立大学 事務局 教務課 教務学生係

住所：富山県射水市黒河5180 〒939-0398 電話：0766-56-7500